

発達段階ごとに見られる行動や事象の区分け

| | 1ヵ月 ～3ヵ月 | 4ヵ月 ～5ヵ月 | 6ヵ月 ～8ヵ月 | 9ヵ月 ～10ヵ月 | 11ヵ月 ～1歳 | 1歳3ヵ月 | 1歳6ヵ月 ～2歳 | 2歳6ヵ月 ～4歳 | 4歳6ヵ月 ～5歳 | 5歳6ヵ月 ～6歳 | 7歳 ～8歳 |
|---------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------|
| 発達の基礎 | | | | | | | | | | | |
| 体の働き | | | | | | | | | | | |
| 手の働き | | | | | | | | | | | |
| 認識面 (言語理解) | | | | | | | | | | | |
| 言語表出 | | | | | | | | | | | |
| 社会性 | | | | | | | | | | | |

→ 発達階層の区切り

※『年齢区分』は、

- ・2歳までは、ピアジェの区分に見られる感覚運動期の6つの段階に基づき、田中昌人氏の「階層一段階理論」に見られるだいたい対応する年齢とされる区分けを取り入れている。
- ・2歳以上については、「階層一段階理論」に見られるだいたい対応するとされる年齢で区分している。

※『各領域』については、白石正久氏、遠城寺式発達検査法、ピアジェの区分け、初代PEPを参考にしている。

- ・「発達の基礎」：それぞれの年齢区分において、その年齢区分を特徴づける発達の特質や、各領域でのそれぞれの活動が生じるために重要な内面的発達基盤を項目に分けて書いている。つまり、この領域をクリアーできてはじめて、真の意味でのその年齢段階は通過したと言える。この領域が不十分であるにもかかわらず、次の年齢区分の他領域がクリアーできている場合は、行動面として見られることはパターン的に獲得されたもの多しと言えるだろう。
- ・「各領域（5領域）」：遠城寺式発達検査法、PEP（初代版）を参考に区分している。

現在の発達レベルおよび問題点の把握について

- ①「発達の基礎」については、現在のレベル以前でどの項目が不十分であるのかを把握しておく必要がある。特に、自閉症スペクトラム障害の場合は、障害特性との関連で課題や支援方法の工夫を討議する必要がある。
- ②「5領域」については、あげられた項目のいくつができたならこのレベルは通過ということではなく、指導に関係する者が全員で討議するなかで、確認しながら該当すると思われる年齢区分を推測していく。

教育的診断へとつなげていくことについて

6つの領域についての発達のレベルを推測したなら、それをもとに教育的診断を全員の討議で進める作業を行っていく。この場合、「発達の基礎」と対象児の障害特性、さらに生活年齢を重要な3つのキーポイントとして討議の基盤としていく。

(作成) 金井孝明

1994年 (作成)

2008年8月 (一部改訂)

2012年2月 (一部改訂)

| | 1 ヶ月～3 ヶ月 | 4 ヶ月～5 ヶ月 |
|---------------|---|---|
| 区 分 | 回転可逆操作期前期 | 回転可逆操作期後期 |
| 発達の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・反射的行動 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉛直位の獲得へのめばえ（支えてもらって、座位がとれる） <p>自分の身体の部分に限られた感覚運動の繰り返しが見られる（＝第1次循環反応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手を閉じたり、開いたり ・首をくりかえし振る ・同じ声をくりかえし出す、など <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">4 ヶ月の力の獲得</div> |
| 体の働き | | <ul style="list-style-type: none"> ・首がすわっている ・仰向けからうつ伏せへの寝返りが支えてもらってできる |
| 手の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・手のひらに物を当てるとにぎる | <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚なつかみ方で物をつかむ ・仰向けで顔にかけられた布をとる |
| 認識面 (言語理解) | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の手の動きを見る ・歩く人などをタテ、ヨコに目で追う（180° 以内） | <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを見て、緊張するようすが見られる ・母親の声により強い反応が見られる ・呼ばれた方を見る ・歩く人を目で追う（360° ） |
| 言語表出 | <ul style="list-style-type: none"> ・声を出してわらう | <ul style="list-style-type: none"> ・キヤーキヤーというような声が出る ・あやすと人に向かって声を出す |
| 社会性 | <ul style="list-style-type: none"> ・話しかけられると、ほほえんだり、声を出したりする | <ul style="list-style-type: none"> ・抱かれるとよるこぶ ・介助に対する応じ方が意識的である ・鏡に映った自分の顔に反応する |

| | 6 ヶ月～8 ヶ月 | 9 ヶ月～10 ヶ月 |
|---------------|--|--|
| 区 分 | 連結可逆操作期前期 | 連結可逆操作期中期 |
| 発達の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> 物や外界を取り入れた循環反応が見られる (=第2次循環反応) <ul style="list-style-type: none"> 手に持った物をくりかえし振る シーツの端をさかんにくりかえし引っ張る、など 前に出されたものを手をさかんに伸ばして取ろうとする (目と手の協応) 物の一部を見て、その物が分かるようになる (インデックスの成立) | <ul style="list-style-type: none"> 自分でしたい気持ちが大きくなる (主客の転倒) 特定の人を求めて止まない気持ちが大きく育つ (第2者の成立) 道具をさわって探索し、おもしろさを発見していく (定位的調整へ) 物がかくされて見えなくなっても、そこに存在し続けることがわかる (物の成立) かくれた物を取ろうとして、「取る」という動作と「布をはらう」という手段が結びついてくる (目的と手段の関係成立) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">10カ月の力の獲得</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">シエマ獲得の節目</div> <p style="text-align: center;">10カ月ごろ</p> |
| 体の働き | <ul style="list-style-type: none"> ハイハイができるようになる 左右どちらにもねがえりができる 座位がとれる (支えてもらわずに) | <ul style="list-style-type: none"> つかまり立ちができる ハイハイしてから自分で座位に転換できる 傾斜や段差を乗り越えて目的のところへ行こうとする |
| 手の働き | <ul style="list-style-type: none"> 片方の手からもう一方の手に物を持ちかえる 拇指対向で物をつかむ おもちゃの太鼓をたたく | <ul style="list-style-type: none"> 両手の物を打ち合わせる 両手を使って遊ぶこともできてくる 橈側の指での接近と把握が見られる (親指と人差し指で物をつかむ、ピンセットつかみ) |
| 認識面 (言語理解) | <ul style="list-style-type: none"> 出された物に手を伸ばして取ろうとする 「イナイナイバー」をよるこぼ 手に持った物をくりかえし振る 話しかけられたり、音がすると行動が一時ストップする 喃語をしゃべりながら、or お座りしてひとりで遊べる 入れ物となかみが分化せず、入れ物ごとひっくり返す どちらか一方の手に持った物に注意が向いてしまう | <ul style="list-style-type: none"> ひとりで夢中になって遊ぶようすが見られる 入れ物となかみが分化し、中身を取り出すことができる 目的をとらえたハイハイができる 指さされた方を見る (志向の指さし) 布をかけて物をかくしても、布を取り払って取る 簡単な模倣ができる (イヤイヤ、ニギニギ、バイバイ、など) 手指を使っての定位的調整ができてくる (鍋に蓋を合わせようとする、「ちょうだい」で相手の手に渡そうとする、など) 喃語が意味を持って、物と対応しはじめる |
| 言語表出 | <ul style="list-style-type: none"> 意図的に呼ぶように声を出す 喃語 (無意味言語) が増えてくる | <ul style="list-style-type: none"> アーアー、マーマーなどの音声をまねようとする 意味を持った喃語が1～2語出る |
| 社会性 | <ul style="list-style-type: none"> 気に入らないと怒るようすが見られる 鏡を見て笑いかけたり、話しかけたりする 人見知りが見られてくる | <ul style="list-style-type: none"> 服を引っ張ったり、声を出して人の注意を引こうとする 相手のしていることに手を出そうとするなどの関心が見られる 大人の使う物への関心がしきりに出てきて、自分でしたがる |

| | 11 ヶ月～1 歳 | 1 歳 3 ヶ月 |
|------------|--|--|
| 区 分 | 連結可逆操作期後期 | 1 次元形成期 |
| 発達の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・「～だ、～だ」の直線的な働きかけが見られる ・バリエーションを加えたりかえしの活動が見られる (=第3次循環反応) <ul style="list-style-type: none"> ・物をくりかえし落とすが、その高さをかえてみる (柔軟性を持った循環反応) ・棒を使って離れた物を取ろうとすると、いろいろと方法をかえてやってみる (つつく、たたく、押すなどの「試行錯誤」) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ※完全にできていれば1歳3ヶ月、できはじめているなどという感じなら11ヶ月～1歳と思われる </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> このころから「顕示欲求」と「承認欲求」が見られてくる ⇨ 再接近期 </div> |
| 体の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・つたい歩きができる ・片手を支えてもらって、歩くことができる ・熊立ちから、ひとりで立ち上がれるようになる | <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりで数歩歩くことができる |
| 手の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・コップを持って、自分であまりこぼさずに飲む ・尖指対向のめばえが見られる ・両手にそれぞれ物をつかみ、別のことができる | <ul style="list-style-type: none"> ・積木を2個積む (片手 or 両手で) ・なぐり描きに線が出てくる |
| 認識面 (言語理解) | <ul style="list-style-type: none"> ・入れ物に物を入れることができる ・簡単な要求に応じる (「おいで」「ちょうだい」など) ・自分で取れない物を「シーシー」と言ったりして要求してほしがる ・物に向かっての声やしぐさを伴った指さしが見られる (定位の指さし) | <ul style="list-style-type: none"> ・「～してちょうだい」「～を持ってきて」の要求に応じられる ・目的のところまでいく ・物にはその物の名前があることがわかり始める ・やろうとすることに柔軟性や試行錯誤がしだいに見られてくる |
| 言語表出 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウマウマ、ブーブー、パパなど2言語える ・動くものすべてを「ブーブー」、動物すべてを「ワンワン」、食べるものすべてを「マンマ」と呼ぶ ・「バイバイ」が言える (1歳) | <ul style="list-style-type: none"> ・3言語える |
| 社会性 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手やその活動に関心が強くなり、自分もやってみたくなる ・ボールのころがし合いっこができる ・友だちやきょうだいの遊びに手を出そうとする ・ほめられると同じ動作をくりかえす (いわゆる「芸」) | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの遊びに興味を持ち、直接関わらなくても、まわりで遊んだりする (集団に入らない集団的な活動) ・いやなとき、表情やしぐさで拒否する ・困難なことに出会うと助けを求める |

| | 1歳6ヵ月～2歳 | 2歳6ヵ月～4歳 |
|---------------|---|---|
| 区分 | 1次元可逆操作期 | 2次元形成期 |
| 発達の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・「～ではない、～だ」のやり直し、方向転換が見られる ・感情が豊かに育ってきて、自我の誕生と拡大が見られる <ul style="list-style-type: none"> ・相手に認めてもらいたがる ・気持ちの立ち直りができる ・粘り強さが見られる ・自分で選びたい、など ・実際に取り組まなくても、予想をたててからの取り組みができるようになる（シエマの内面化、予想の成立） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 名前の発見の節目 1歳6ヵ月～2歳ごろ </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・対の世界の成立が見られる（「大・小」などのことばでの意味づけによる対概念の獲得） ・「できるか自分」か「できない自分」かでの理解 ・前概念的思考段階である <ul style="list-style-type: none"> ・ことばが急に増える ・「みたて」や「つもり」などの象徴的遊びが盛んに見られる ・特殊なことから特殊なことへと結びつける転導的な推理が見られる ・自我の拡大のもとで、相手をも受け入れることができる ・相手は自分とは違った考えや気持ちを持つことができるようになってくる（これは4歳～；この段階では、意図的な「うそ」をつくことができるようになってくる） |
| 体の動き | <ul style="list-style-type: none"> ・直立二足歩行が確立する ・布団に足から入ったり、滑り台を足からすべる ・いすに一人ですわれる ・片足立ちでもバランスが取れるようになる ・手すりにつかまらずに階段を一人で一段ごとに足をそろえながら上げられる ・ストローで飲む | <ul style="list-style-type: none"> ・両足ではねる ・立ったまま、くるっと回れる ・片足で何秒か平衡がとれる ・階段を一段一步であがる ・三輪車のペダルを踏む（障害物を避けることはできない） ・でんぐり返しができる ・抵抗を乗り越えて歩く（坂道、砂の上、水の中、滑り台を反対に上がる、など） |
| 手の動き | <ul style="list-style-type: none"> ・尖指対向が完成する ・積木を3つ以上積める ・左手と右手の異なった動きを統一する遊びができる（バケツを押さえて、もう一方の手でスコップで土を入れる、など） ・円錯（円が描ける手前の閉じない円）が描ける | <ul style="list-style-type: none"> ・尖指対向で細かい遊びができる（ブロックを横だけでなく、縦にも積む） ・円が描ける（模写してもよい） ・十字が描ける（模写してもよい） ・利き手が確立してくる ・はさみで紙がどうにか切れる |
| 認識面 （言語理解） | <ul style="list-style-type: none"> ・目、耳、口、手、足、腹を指示できる ・道具をそれらしく使える ・「～はどれ？」に指さして答える（可逆の指さし） ・自他の領域区分ができてくる（自分のもの） ・延滞模倣（まねる相手がいなくても、時と場所をかえても、見てきたことをまねて再現できること）ができる ・はめ板が完成できる ・目標のところに回り道や方向転換していける ・離れた場所に行き、目的を果たして帰ってくる ・「なに？」、「どこ？」、「だれ？」が分かり、応える | <ul style="list-style-type: none"> ・自他の領域分化の確立（「これ、わたしの」「これ、○○の」がわかる） ・二つの皿に同数の積木を分け入れる ・「もうひとつ」や「もう少し」がわかる ・「みたてや「つもり」ができる ・円状の描画内に「目」「口」などが意味を持って描き込まれる ・丸などの絵に、「これ、パパ」「これ、わたし」など命名する ・「なぜ？」、「どうやって？」が分かり、応える（3歳～） ・転導的推理（特定の物を見て、状況に関係なしに関係する特定のものを推測してしまう） |
| 言語表出 | <ul style="list-style-type: none"> ・いやなときにことばで「イヤ」と言える ・対象物に応じたことばが教えられて言えるようになり、ことばの増加が見られる ・2語分が見られる ・簡単な質問に答える（「ママはどこ？」など） | <ul style="list-style-type: none"> ・ことばの量が飛躍的に増えてくる ・「～だから」を使う ・同年齢の子どもと簡単なお話（会話）ができる ・3語文が見られる（3歳～） |
| 社会性 | <ul style="list-style-type: none"> ・親から離れて、一人で遊べる ・友だちと手をつなぐ ・おどけたり、ふざけたりなどして、感情表現が豊かになってくる | <ul style="list-style-type: none"> ・「これ、なに？」「なんで？」「見て、見て」などのことばで、相手を自分の行動に引き込もうとする ・自他の領域分化による自己主張が見られる（反抗やわがまも見られることもある） ・ごっこ遊びができる ・順番を待つことができる ・年下の子どもの世話をやきたがることもある |

| | 4歳6ヵ月～5歳 | 5歳6ヵ月～6歳 |
|---------------|---|---|
| 区分 | 2次元可逆操作期 | 3次元形成期 |
| 発達の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・「～しながら、～する」という二つの異なる動作を一つにまとめ上げることができる ・「～だけれども、～する」の力のめばえとともに、自制心がめばえてくる ・他者の賞賛を得たいという気持ちと、「はにかみ」の気持ちの葛藤が見られる ・友だちといっしょの集団生活へと世界が広がっていく ・セオリーオブマインドの獲得 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> 概念形成の節目 </div> <p>4歳ごろ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直感的思考段階である ⇒論理的な思考の枠組みはできつつあるのだが、知覚がまだ優先してしまいうことがほとんどである（例えば、物の数はその並べ方で多くも少なくもなってしまう） <p>～エディプスコンプレックス期</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「～だけれども、～する」が理解でき、それに従って行動できる ・行為の自己基準準を持ち、かつそれを他者のそれとの関係で調整していくことができる（一方的な自己主張ではなく、意見や事実の違いに調整を試みようとし、自制心が育つ） ・具体物を媒介にして、自分自身や自分の行為を対象化し、それを形成的に評価できる芽が生まれてくる（道徳的な良し悪しの判断） ・大中小の3つの世界の成立 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px; float: right;"> 5歳6ヵ月の力の獲得 </div> |
| 体の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・異なる二つの動作を一つに結合させる運動ができる（例、ケンケンで進む、スキップする、ウサギとびで進む、三輪車をこいで障害物を避けて進む） ・ブランコに立ち乗りしてこげる ・すもうで力を入れて相手を押すことができる | <ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びができる ・利き足ができてくる（体重のかかりやすい方の足） ・まりつきができる |
| 手の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・はさみで線に沿って紙が切れる ・釘を持ち、かなづちで打ちこめる ・みかんの皮を自分でむく ・ボタンをはめる ・鼻をかみ、ふきとることができる ・頭足人を描く、三角形を描く ・簡単な折り紙ができる（紙ひこうきなど） ・「三つ」と「きつね」がまねしてできる | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふみきりカンカン」を「はやくやっでごらん」「ゆっくりやっでごらん」に応じてだいたいできる ・渦巻描画（印刷された渦巻きのラインの間に、横のラインに触れないようにラインを引いていく）に注意を継続して取り組み、繰り返し行なうと触れる（失敗する）回数が減っていく |
| 認識面 (言語理解) | <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な物語で、字面よりも文脈に関心が向いてくる ・10までなら、一つずつ物を数えられる ・「自分のもの」という所有観念の完成が見られる ・絵に動きが見られてくる ・信号を見て、正しく道路を渡れる ・助詞で表される空間や位置の関係性を理解できる（ことばでの状況把握が可能となってくる） | <ul style="list-style-type: none"> ・家からよく行くところ（例えば、幼稚園など）までの道順を目印や曲がり角を入れて絵で再現できる（簡単な地図を描ける） ・物を概念で説明できる（例、「電車は？」の問いに、「乗り物」と答える） ・自分の顔 or 姿を横やうしろから見た状態で描ける ・小さい円から大きい円まで連続的に描ける（3個以上） ・大中小の区別ができる ・「もう少し大きく」「いちばん大きく」が分かる ・物理的な因果関係を推測できる（原因・経過・結果の理解）。 |
| 言語表出 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前が言える ・経験したことを友だちに話す ・注意を集中して、数字の復唱ができる（312、437、869のうち一つでよい） | |
| 社会性 | <ul style="list-style-type: none"> ・対の世界の一方に自分を位置づけ、自己と自己でないもの（他者）の関係が成立する ・じゃんけんで勝ち負けが決められる ・物の貸し借りにより、遊びの集団化が見られる ・友だちと協力して遊べる ・相手の表情や動作に敏感になり、相手を絶えず意識した行動がとれる（時にふざけたり、わざと反対のことをしたりすることもある） | <ul style="list-style-type: none"> ・「親との関係」「先生との関係」以外に、「友だちとの関係」が成立する ・同じ目的を持って集団で行動できる |

| | 7歳～8歳 | |
|---------------|--|--|
| 区分 | 3次元可逆操作期 | |
| 発達の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ・「だんだん～になる」から、時間の概念が理解できてくる ・具体物を用いれば、知覚に惑わされることなく、道筋を立てて論理的にものごとを考えることができる（具体的操作段階のめばえ） ・「友だちとの関係」が拡大する ・学んだという実感が持て、学習効果が上がる。教科学習が可能となってくる ・包含関係の理解（「全部」とそれを構成する「部分」の関係性がことばで理解できてくる） ・時間の概念の獲得 | |
| 体の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・竹馬で歩ける ・縄跳びをしながら走ることができる | |
| 手の働き | <ul style="list-style-type: none"> ・見本を見て花結びをする（丸が二つあること） ・名前以外に文字を5～6字書く ・菱形の模写が3回に1回正しくできる | |
| 認識面 (言語理解) | <ul style="list-style-type: none"> ・形の違うコップに同量の水を入れ、水の量が同じか違うかがわかる（かつ、その理由も言える） | |
| 言語表出 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちをはっきり言える | |
| 社会性 | <ul style="list-style-type: none"> ・約束と目的を持った集団に自主的に参加する ・集団での役割を責任を持って果たす | |